

むかしむかし、大むかしの三人のごどもたち

まだ人間がマンモスをおいにかけて生活していた、そんなむかしむかし、大むかしのお話です。

ゴンはげんきいっぱいの子。今年で9才になります。朝起きてから夕方帰るまで、一日中遊んでくらししていました。シカをおいかけたり、木登りをしたり、ゴンがくらす穴の近くは、楽しい遊び場だらけだったのです。

とつても天気の良い、ある秋の日のことです。遊びに行こうとしていたゴンは、お父さんによび止められました。

「ゴンよ。そばの森の入口まで行って、木の枝とシラカバの木の皮をとってきてくれ。火をつけるときに使う木が少なくなってきたのだ。」

ゴンは遊びに行きたい気持ちもありましたが、家族の仕事も大事なので、大きなかごを持って、てくてく歩いて行きました。

森の入口についたゴンはさっそく、木の枝を拾ってポイとかごの中に入れていきました。子どもの中でもすばやい方なので、どんどん木の枝が集まっていけます。次は、シラカバの皮です。シラカバの皮は、とてもよくもえるので、火をつけるときに便利なのです。

シラカバの木が集まっている所に行くときアレマが、ゴンと同じようにシラカバの木の皮を集めていました。アレマはゴンと同じ年で、いつもゆっくり、おっとりした、やさしい男の子です。

「おはようアレマ。」

「やあ、おはようゴン。」

のんびりとした声が返ってきました。アレマも同じような仕事を頼まれたのでしよう。ゴンのより大きなかごをかついでいます。でもあまり、中身は入っていません。ゴンはさつきと同じように、ポイとシラカバの皮を集め、あつという間にかごの中をいっばいにしました。

一仕事終えてゆっくりしていると、大の仲良し、ブブがやってきました。

「おーいゴン、おじさんから聞いたよ。その仕事が終わったらつりに行こうぜ！」

ブブはつりざおを2つ、持っていました。

「いいねえ。今日は海が気持ちよさそうだし、たくさんつれそうな気がするよ！」

ゴンはにっこりして言いました。

「そうと決まったら、つりざおを、ここで改良しよう。

この前はあまりつれなかったからね。」

と、ブブは近くの木を集めて、つりざおを改良して



いきました。ゴンもわくわくして、いっしょにつりぎおをいじり始めました。だんだんりっぱなつりぎおになってきて、ゴンもブブブもますますこの後のつりが楽しみになってきました。

その時、ふと横を見ているとアレマがまだ、シラカバの皮を集めています。

後ろすがたしか見えません。ゴンの作っているつりぎおは、まだまだできていません。ゴンはつりぎおを見つめて、じっと考えました。そして、歩き出しました。

「アレマ、ぼくも手伝うよ。」

アレマはおどろいた顔をして、

「せっかくつりのじゅんびをしているのに、いいよ、いいよ。」

と言いましたが、ゴンはせっせとシラカバの皮を集めていきました。アレマのかごが大きかったこともあって、中々かごいっぱいにはなりません。それでも二人はいっしょけんめい探して、時間をかけて何とか集めました。

太陽がずいぶん高くなってきました。アレマは心の底からうれしそうに

「ありがとうゴン。とっても助かったよ。」

とゴンに笑いかけました。ゴンが何かをアレマに言おうとしたとき、後ろからブブブが歩いて来ました。ずっとつりぎおを改良し続けていたのでしょうか。

「じゃじゃーん！アレマとゴンの分のつりぎおも作っておいたぜ！」

ブブブの手には、とてもりっぱなつりぎおが三本、にぎられています。

アレマの顔がますます明るくなりました。

三人はそれから少し話して、森を後にしました。一人一本のつりざおを持ち、三人で二つのかごを持ちながら、小さなかげが森からはなれていきます。

今日はいい天気。楽しいことがたくさんありそうです。

(野村 宏行 作)



むかしむかし、大昔のこどもたち

(中学年 2-(3))

(1) ねらい

友達の立場を考えながら助け合って生活しようとする心情をはぐくむ。

(2) 資料の特質

「大昔の子ども」と設定することで、近すぎず、遠すぎない距離を児童にもたせるようにした。自分の楽しみを優先する主人公、ゴンの姿は児童の生活にもつながることが多く、共感しやすいことが期待できる。仕事が終わらず困っている友達、アレマを思いやるゴンの姿から、相手の立場を考えて行動するよさを感じ取らせたい。その際、「あまり仲のよい友達でない」という視点も重視し、児童の実態に重ね合わせていけるようにする。

(3) 展開例

- 1 児童が書いた詩「友だちっていいな」を紹介する。
- 2 資料「むかしむかし、大昔の子どもたち」を読んで話し合う。
 - ① ブブブとつりざおを作るゴンは、どんな気持ちだったか。
 - ・早く行きたくてしょうがない。
 - ② 木を集めるアレマと作りかけのつりざおを、
ゴンはどんな気持ちで見たのか。
 - ・アレマ、大変そうだな。助けてあげたい。
 - ・ぼくならもっと早くできるかな。
 - ③ 3人で帰るとき、ゴンはどんなことを考えていたか。
 - ・2人より、3人の方が楽しいだろう。
- 3 友情についてのこれまでの自分を、ふりかえる。
- 4 教師の説話を聞く。

(4) 指導上の留意点及び工夫

本時では、学習した価値への考えをさらに深めていく説話を行う。「あまり仲良くない友達への友情」を取り扱った授業であるので、説話もあえて同様の話をする。教師が明確な意図をもって説話を適宜行っていくことで、学習の深まりがでていくようにしたい。

〔本文イラストは酒井桃華による〕